雪谷地区優秀作文

可能性への投資

大田区立大森第七中学校　三年　山﨑　允登

近年、税金に関してのニュースで批判的な意見が多いと感じる。実際に二〇一九年の消費税の増税の際に増税反対のデモが起こったそうだ。しかし、本当に税金は悪とされることなのだろうか。私は悪とは思わない。

その根拠として私の実体験を挙げる。私は生まれつき病気を持っているため、十歳までに四回の手術を受けた。そのうちの一回は国からの補助、三回は自治体からの補助で受けた。その費用は税金から賄われていることをつい最近知ってとても驚いた。また、治療方法にいくつか選択肢があったとき、税金のお陰で金銭面で妥協することなく、よりよい医療を受けられたことを知り、とてもありがたかった。また、幼稚園も年中生まで住んでいた福岡市から第三子優遇事業で年間三十万円の補助が受けられていた。だから年長生で父の仕事の都合で東京に引っ越してきた時はそれがなくなり、両親はとてもショックだったらしい。私はそんな両親の気持ちなど、全く知らずに今まで育ってきたが、今回改めてその背景を知ることができた。

そして現在、日本は少子化という大きな問題を抱えている。もし子供の医療費や教育費の助成がもっと増えたり、無料になれば、子供は金銭面で諦めたり、妥協することなく、選択肢が広がるのではないか。そしてそれが少子化対策につながるのではないか。実際スウエーデンの消費税は二十五パーセントと日本の倍以上であるが、子育て支援に特に力を入れているため子供が十六歳になるまで金銭的な支援を受けられたり、出産費用や二十歳までにかかる医療費、大学までの学費が無料になるという手厚いサポートが受けられる。少子高齢化問題の解決にはこういった施策が必要であり、それを支えるために税があるのではないかと私は考える。

これらのことから税は国民の生活の安全性や快適性を保持増進するため、自分自身、自分の大切な人、未来を担う子供を支え、国を未来につなげていくためのものであると考える。そのため、税金は悪ではなく、むしろ善と捉えられるのではないかと思う。だから税金についてむやみに拒否感を示すのではなく、使われ方についてよく知るべきである。そうすれば、税金や増税のマイナスのイメージが消えていき、いずれはプラスのイメージになっていくと思う。そして、国民一人一人がプラスのイメージを持つことで少子高齢化の解決に一歩近づくのではないだろうか。